

# 語彙を豊かにする「文字なし絵本」の可能性

## —詩の創作活動を通して—

### The Possibilities of "Textless Picture Books" to Enrich Vocabulary: through poetry creation

徳永加代

TOKUNAGA Kayo

本研究では、「文字なし絵本」を活用した詩の創作活動の有効性について明らかにし、語彙を豊かにする「文字なし絵本」の可能性について考察を行った。

具体的には「文字なし絵本」を用いた小学校2年生の詩の創作活動について、考察した。その結果、「文字なし絵本」を活用して、詩を創作することにより、①絵が物語っていることを読み取る力がつくこと②今まで獲得してきた言葉を探して表現する力がつくことが明らかになった。

#### 1. はじめに

平成29年版小学校学習指導要領「国語」(2017)では、語彙を「全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力の重要な要素」と位置づけ、「語彙を豊かにする指導の改善・充実」が重視されている。

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』(2017:8)には、「語彙指導の改善・充実」について、次のように示されている。(引用中の下線は論者が添えた。以下同様)

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高めることである。

「意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やす」とあるように、理解している語彙を増やすだけでなく、理解している語彙の意味や使い方の認識を深めて表現できる語彙として定着させることが求められている。児童が、より具体的に自分の考えや思いを表すことができるようにするためには、表現できる語彙としての定着が必要不可欠である。

本を読んだり、授業で学んだりして新たな言葉に触れ、その働きを理解して語彙を増やしていく。そして、その言葉を自分の思いや考えを伝えるための媒介として用いて、役割について実感する。つまり、働きの理解だけではなく、繰り返し表現していくこと

<sup>1</sup> 帝塚山大学 教育学部 准教授

が、使える言葉を増やしていくために肝要である。

小学校における語彙を豊かにする指導は、就学以前の言葉の獲得からつながっている。『幼稚園教育要領』（2017：5-16）では、領域「言葉」において「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」と明記されている。また、ねらいに「日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる」内容の取扱いには「(3)絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること」が示されている。

幼児は生活において、保護者や教師、友達など身近な人の言葉や、絵本や物語の言葉を取り入れながら、言葉を獲得していく。主体的に活動に取り組み、言葉で表現したくなるような経験や感動などを共有し合ったり、共に考えたりする体験が重要である。「絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりする」ことを通して、自分の中にある言葉を引き出すことができるであろう。絵本の読み聞かせを通して、語彙を増やし、言葉の感覚を磨いていくことが期待されている。

本研究では、「文字なし絵本」を活用した詩の創作活動の有効性について明らかにし、語彙を豊かにする学習材としての「文字なし絵本」の可能性について考察を行う。

## 2. 「文字なし絵本」とは何か

### 2.1 「文字なし絵本」の定義

「文字なし絵本」は、絵本の様々な形態の一種であり、扉ページの次ページから、奥付の前ページまで全く文字がない絵本である。「字のない絵本」「字なし絵本」「言葉のない絵本」など様々な表現が用いられている。「文字なし絵本」について『絵本の事典』（2011:334）には、次のように記されている。

イラストレーションのみで構成された絵本。絵本は一般的に、テキスト（ことば、文）とイラストレーション（絵）による総合芸術と呼ばれるが、視覚言語としてのイラストレーションのみで事物や物語を表現する絵本ならではの試みが文字なし絵本である。文字なし絵本には、形と色彩のみでストーリーが展開する絵本、絵の細部に描きこまれた物語を発見して楽しむ絵本、ナンセンスなイメージの展開を楽しむ絵本、自然の変化を視覚的に表現した写真絵本などがある。

「文字なし絵本」は、「視覚言語としてのイラストレーションのみで事物や物語を表現する絵本ならではの試み」とあるように、「絵」そのものが物語である。作者が絵に込めた、細かな描写やこだわりについて読み取り、想像力を膨らませ、自分だけのストーリーを展開しながら読んでいく。自分も絵本作りに携わっているかのように、読者が主体的に作品の中に入り込み、絵本の世界観をより深く味わうのである。

石井（2015：39）は、「文字なし絵本」について、次のように記している。

文字なし絵本では、テキストとしてのことばのない分、絵のことばが読者に雄弁に

語り，読者は自問する答えを絵から得て，物語を紡いでいく。読者と絵のコミュニケーションなくしては成り立たないのが，文字なし絵本であると言い換えてもよいだろう。絵本が読者に対話を求めた究極的な形が，文字なし絵本であるかもしれない。そこには文字はないが，ことばは確実に存在する。つまり，文字のないことばを，読者は自分の心と体にかつて刻まれた経験から，それを絵に聞き出していくということになる。絵に込められたことばを聞き出し，心にイメージし自分のものとするために，読者は立ち止まる。見えない聞こえない，そのことばを読もうとし，そうして立ち上がってくる言葉に耳を傾けるのである。

「読者と絵のコミュニケーションなくしては成り立たない」「絵に込められたことばを聞き出し」とあるように、「文字なし絵本」では，読者がイメージを広げながら，絵を読み解いていくといえるであろう。そして，読者が読み解いたことを「立ち上がってくる言葉」つまり，絵や写真から読者が体験に基づいて想像しながら，今まで獲得してきた言葉を探して表現しながら読み進めることになる。言葉をつむぐことを通して，表現する語彙を獲得することができるだろう。

## 2.2 「文字なし絵本」の分類

『ベーシック 絵本入門』（2013）では、「文字なし絵本」について，表1のように大きく3つ（時間の流れと変化を描く，絵本に「もの」や「こと」を確認して楽しむ，他のメディアの手法や特殊な形態を採用したもの）に分類している。

「文字なし絵本」には，絵が物語る言葉を読者が想像しながら読み解いていく楽しさがある。特に，時間軸に沿って場面が展開する場合は，主人公になりきって物語世界に入り込むことができる。五感を使い心情を読み取り，読み取ったことを自分の言葉で表現することを通して語彙を豊かにする学習材として活用できるだろう。

表1 「文字なし絵本」の分類

分類	内容	代表的な絵本
時間の流れと変化を描く	形の変容とイメージの連鎖	『あかうふうせん』 イエラ・マリ (ほるぷ出版 1976) 『ぞうのボタン』 上野紀子 (富山書房 1975)
	ときの推移に伴う変容を描く	『木のうた』 イエラ・マリ (ほるぷ出版 1977) 『はるにれ』 姉崎一馬 (福音館書店 1981) 『なつのかわ』 (姉崎 一馬著 福音館書店 1988) 『ことり』 新宮晋 (文化出版局 2007)
	主人公を追って展開していく	『かさ』 太田大八 (文研出版 1975) 『旅の絵本』 シリーズ安野光雅 (福音館書店 1977) 『アンジュール』 ガブリエル・バンサン (BL出版 1986) 『Michi』 junaida (福音館書店 2018) 『セクター7』 デイヴィッド・ウィーズナー (BL出版 2000) 『なみ』 スージー・リー (講談社 2009) 『せん』 スージー・リー (岩波書店 2018)
絵本に「もの」や「こと」を確認して楽しむ	幼い年齢の子どもに向く	『どうぶつのおやこ』 蕨内正幸 (福音館書店 1966) 『じどうしゃ』 寺島龍一 (福音館書店 1966)
	「こと」を確認する	『やこうれっしゃ』 西村繁雄 (福音館書店 1983)

他のメディアの手法 や特殊な形態を採用 したもの	コマ割を使う	『ゆきだるま』レイモンド・ブリッグズ (評論社 1978) 『ちいさな天使と兵隊さん』ピーター・コリントン (すえもりブックス 1990) 『天使のクリスマス』ピーター・コリントン (ほるぷ出版 1990)
	映像のカメラワーク を使う	『ズーム』イシュトバン・バンニャイ (復刻ドットコム 2005) 『漂流物』デイヴィッド・ウィーズナー (BL出版 2007)
	カード式	『はじめてのかたち FIRST LOOK』駒形克己 (偕成社 1990)
	絵巻えほん	『絵巻えほん 川』前川かずお (こぐま社 1981) 『絵巻じたて ひろがるえほん かわ』加古里子 (福音館書店 2016) 『改訂版 絵巻えほん 11 びきのねこマラソン大会』馬場のぼる (こぐま社 1992)

\*表の作成にさいして、『ベーシック 絵本入門』(2013)を参照した。

### 2.3 「文字なし絵本」を使用した先行研究

金澤・山本(2015)は、短大保育科1年生を対象に「文字なし絵本」の内容を記述させ、入学時の記述力・表現力を探る調査を行っている。その調査からは、「学生が基本的な記述力や表現力は持っているが、語彙を駆使して豊かな表現をするというところにまでは到達していないことを示唆している」と述べている。また、「文字なし絵本」を用いての作話課題終了後の学生の反応から、「楽しみながら課題に取り組める表出環境の設定に、文字なし絵本は利用価値が高い」と評価している。

金澤・山本(2016)は、短大保育科1年生と小学校4年生を対象とした「文字なし絵本」を用いた作話課題の調査を行い、「短大生、小学生とも文字なし絵本の登場人物と周りの事物を関連させながら記述していること、限られた場面を優しい動詞を中心に記述していること、小学生はオノマトペの使用が多く、各ページに描かれていることを利用しながら関連付けた記述がされていない」と述べている。

本研究では、「語彙を駆使して豊かに表現する力をつけること」に焦点を当てる。語彙を豊かにするためには、幼いころから様々な言葉を理解し、それを使って表現していくことが必要である。「文字なし絵本」は、言葉がないので、読者は絵を読み解き、想像しながら言葉を探し表現していかなければならない。絵と対話していくことは自分との対話である。自分と対話しながら言葉を引き出していくことができる「文字なし絵本」は語彙を豊かにする学習材としての価値があるだろう。

### 3. 「文字なし絵本」を活用した詩の創作の実際

以下、大阪府内の公立小学校2年生を対象に令和5年1月に行った「文字なし絵本」を活用した詩の創作の有効性について考察する。

#### 3.1 小学校2年生国語「詩の創作」の概要

〔単元名〕詩を作ろう 見たこと、かんじたこと (光村図書 下)

〔単元目標〕

- ・自分が見たり聞いたり、感じたり思ったりしたことから、必要な事柄を集めて詩を作ることができる。
- ・身近なことを表す語句を増やして、詩の中で使うことができる。

- ・自分や友だちの詩のよいところを見つけて、詩の感想を伝え合うことができる。

〔単元の特徴〕

本単元では、第1学年及び第2学年「B書くこと」の指導事項「ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること」に重点を置いて指導する。

詩は、出来事や様子、気持ちを詳しく書く作文と違い、短い言葉で表現する必要があるため、事柄や言葉をより吟味しなければならない。動物や生き物になりきって気持ちを想像し、見たことだけでなく感じたことも言葉に置き換え、気持ちに合う言葉を吟味していくことにより、語彙を増やし言葉に対する感性を豊かにすることができる。

語彙が少ないこの時期の児童にとって、自分で言葉を見つける楽しさやおもしろさを体験させることは、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすきっかけになる。

はじめに「文字なし絵本」を読み、想像力を膨らませ、絵に出てくる動物や生き物の気持ちを想像して、会話や音を加えてお話作りをする。次に、必要な言葉を選択して、リズムや繰り返しを用いて詩の形式にしていく。また、班でおもしろいところやよいところを共有することにより、表現の工夫や良さを知り、人それぞれに感じ方の違いがあることに気付かせる。これらを通して、身近なことを表す語句を増やすことができる。

詩の創作に参考になる絵本を学級に置き、いつでも見ることができるようにした。表2は、今回活用した言葉や詩のおもしろさ・リズムを楽しむ絵本、表3は、絵本から言葉を想像して楽しむことができる「文字のない絵本」である。

**表2 言葉や詩のおもしろさ・リズムを楽しむ絵本**

書名	作者	出版社	出版年	内容
きゃっきゃキャベツ	いわさゆうこ	童心社	2012	リズムカルな言葉と丁寧に観察されたキャベツが本物そっくりに描かれている。
なぞなぞあそびうた	角野栄子作 スズキコージ絵	のら書店	1989	リズムカルなことばと楽しい絵がいっぱいの身近なものなぞなぞあそびの本。
のはらうた 1～5	くどうなおこ	童話屋	1984	森や野原に住む生き物や風などになりきって作られた詩集。
パンどろぼう	柴田けいこ	KADOKAWA	2020	ストーリーを楽しむ中で教訓もある絵本。言葉のリズムがいい。
へんしんトンネル	あきやただし	金の星社	2002	トンネルの中に入ると、言葉が変身する。声に出して楽しむ言葉遊びの絵本。
もこもこ	谷川俊太郎作 元永定正絵	文研出版	1977	「しーん、もこもこ、によきによき」音と言葉であそぶ絵本。
もけらもけら	山下洋輔 文 元 永定正 絵	福音館書店	1999	「でけ」「ぺたら」「じょわらん」など、言葉はリズムとなって、響きを楽しむことができる絵本。

**表3 絵本から言葉を想像して楽しむことができる「文字のない絵本」**

書名	作者	出版社	出版年	内容
雨、あめ	ピーター・スピアー	評論社	1984	カッパと長靴をはいて出かけた二人の会話が聞こえてくる。雨の一日を描いた絵本。
アンジュールある犬の物語	ガブリエル・パンサン	BL出版	1986	車から投げ捨てられる犬。犬の動きや表情を、様々な角度から克明に写し取った絵が物語る絵本。
えんにち	五十嵐豊子	福音館書店	2017	綿菓子、いか焼き、お好み焼き、お祭りの夜店の賑わいや時の流れを綿密に描かれた絵だけで伝えている。
おふろやさん	西村繁男	福音館書店	1983	家族で銭湯に出かけるお話。なつかしいおふろやさんを楽しみながら見ることができる。

しま	マルク・ヤンセン	福音館書店	2022	船が大破し犬と、女の子と男性が流れ着いた島は亀の甲羅の上だったから始まる話。
スノーマン	レイモンド・ブリッグズ	評論社	2021	男の子が作ったゆきだるまが夜中に動き出し、空を飛んだり、美しい風景を味わう一夜の物語。
旅の絵本	安野光雅	福音館書店	1977	近代ヨーロッパの町並みと日常の風景がこと細かに美しく描かれている。よく見ると、みんながよく知っているおはなしの世界も登場している。
ツリーハウス	ロナルド・トルマン/マライヤ・トルマン作	西村書店	2012	しろくまとくろくまと、ツリーハウスにやってくる動物や鳥たちが、動作も細かく愛らしく描かれている
ふくろうおやこ おやこうもり	マリー=ルイズ・フィッツパトリック	BL 出版	2016	一本の枝に、上がふくろうおやこ、下がこうもりおやこ、互いに気を使って…ユーモラスな展開がほほえましい。
ふたごのうさぎ	ダフネ・ロウター	NHK 出版	2018	ふたごのうさぎが過ごす時間帯や季節の移り変わり、絵のタッチが優しく、穏やかな気持ちになる。
もりのえほん	安野光雅	福音館書店	1981	森の光景の中に、様々な生き物が隠し絵として描かれている。

### 〔学習材〕

『木のうた』 イエラ・マリ作 ほるぷ出版 1977年

### 〔学習の流れ〕

- ① 教科書に掲載されている2年生が作った詩「二じゅうとび」「オクラ」「きれいな雲」から好きな詩を選んで、理由を述べ合い、くりかえし、様子を表す言葉(オノマトペ・たとえ)など読み手に伝わる表現のわざを知る。海の生き物「たこ」の動画を見て、たこの動きや様子を簡条書きにする。
- ② 「文字のない絵本」を読み、自由にお話作りをする。
- ③ 『木のうた』を読み、動物や生き物になりきってお話作りをする。  
そのお話をもとに詩を創作する。
- ④ 創作した詩を読み合い、よさを伝え合う。

## 3.2 学習材として活用した「文字なし絵本」の特徴

図1 『木のうた』表紙 『木のうた』イエラ・マリ作 ほるぷ出版 1977年【図1】



1本の大木を16見開きページ全て同じ位置にすえ、四季とともに移り変わる木の姿と小鳥や動物たちの生態を描いた「文字のない絵本」である。季節の移り変わりを定点観測したような物語。背景の描写はない。

表4は、『木のうた』の各見開きに描かれているものをまとめたものである。

『木のうた』を使用した理由は、次の2点である。①1本の木とその1本の木を通した物語になっているので、想像しやすいこと。②四季を感じながら言葉を引き出しやすいこと。

表4 『木のうた』各見開きに描かれているもの

見開き	描かれているもの
1	枯れ木は黒く、地面には雪が積もっているように見える。背景は濃い目のグレー。
2	枯れ木が白く、地面のなかに根も見える。地面は黒い点で描かれ。所々は白く、細かな赤・黄・青の点が見える。左下には赤と黄色の何か光るものがある。右下に動物がうずくまっている。下から4分の1のところ全体が濃い黒と白の点で描かれ、山脈を思わせる。この描写はこの場面だけである。背景は薄いグレー。

3	枯れ木が白く、地面のなかに根も見える。地面は黒い点で描かれ。所々は白く、細かな赤・黄・の点から緑が小さく伸びている。左下には赤と黄色の種に芽が出てきたように見える。右下の動物が目を目を覚ましうづくまっている。背景は薄いグレー。
4	木に新芽が出てきて左上には巣らしきものがある。木の幹・枝は濃いモスグリーン、新芽は薄い黄緑。地面は草が生えてきている。地面は黄土色。草は薄い黄緑。右下の動物が地面から顔を出している。背景は白。
5	木にさらに新芽が増え、左上には巣らしきものがある。木の幹・枝はモスグリーン。新芽は濃淡のある黄緑。地面の黄緑の草も増え黄緑が濃くなっている。右下、リスが木に登ろうとしている。左上から取りが2羽巣をめざして飛んできている。背景は白。
6	木の新芽が大きな葉になってきた。幹・枝の色は薄いモスグリーン。地面の草が伸びている。右枝にリスがのぼっている。巣のところに1羽巣作りをする。地面に一羽枝を集めている。背景は白。
7	木の葉がさらに大きく濃い緑になっている。幹・枝の色は濃いモスグリーン。地面の草は伸び、左のところに花が育ってきている。リスは木の枝におり、卵を温めているであろう巣の様子をうかがっている。1羽は巣に座り、卵を温めている。1羽はそれを見守っている。背景は白。
8	木の葉がさらに大きく茂げり、濃い緑になっている。幹・枝の色は濃いモスグリーン。地面の草は伸び、左のところに花のつぼみがついている。リスは木の幹に上り、巣を覗いている。巣の中には3羽の小鳥に1羽が餌を与えている。1羽は餌を巣に運んでいる。背景は白。
9	緑の木の葉がさらに大きく茂げり、枝を覆っている。実になる黄緑の丸いものが見える。幹・枝の色はこげ茶色。地面は黄緑の草でおおわれている。花も咲いている。リスは木の幹に上り、小鳥の飛ぶ練習を見ている。2羽の親鳥は、飛び方を教えている。背景は白。
10	木の実が実った木。幹・枝の色はこげ茶色。地面は黄緑の草でおおわれ、花も咲いている。リスは幹のところで木の実を食べている。小鳥も木の実を食べようとしている、1羽の小鳥は虫を捕まえようとし、それを親鳥1羽が見守っている。地面は伸びた黄緑の草でおおわれ花も大きくなっている。背景は白。
11	木は紅葉し、幹・枝はこげ茶、葉は濃いオレンジ。地面の草や花は枯れて黄土色になり育った鳥3羽と親鳥が木のみを食べている。リスは木の実を集めて下に降りようとしている。背景は白。
12	落葉している葉は紅色。幹・枝の色は濃い茶色。地面は濃い黄土色で枯れた草や花は、黄土色。鳥たちは餌を加えて飛び去って行く。リスは穴を掘っている。背景は白。
13	枯れ木が白く描かれ、地面のなかに根も見える。地面の所々は白く地面は黒い点で描かれ。左下には花のたねらしきものが見える。右下にリスが集めた木の実や紅葉のある巣穴に入ろうとしている。背景は薄いグレー。
14	枯れ木が白く描かれ、地面のなかに根も見える。地面の所々は白く、黒い点で描かれ。細かなたねが見える。右下にリスが集めた木の実や紅葉した葉のある巣穴で冬眠しようとしている。背景は薄いグレー。
15	枯れ木・地面・背景すべて白黒の点描画になっている。枯れ木と地面がやや濃くなっている。枯れた草も見える。
16	枯れ木が黒く描かれ、地面は白。雪が降って積もっている。背景は明るい灰色。

### 3.3 「詩の創作活動」の考察

学習の流れに沿って、考察する。

(1) 教科書に掲載されている2年生が作った詩「二じゅうとび」「オクラ」「きれいな雲」から好きな詩を選んで、理由を述べ合い、くりかえし、様子を表す言葉(オノマトペ・たとえ)など読み手に伝わる表現のわざを知る。海の生き物「たこ」の動画を見て、たこの動きや様子を箇条書きにする。

ものを観察するには、多面的に物を見つめ、イメージを広げることが大切である。教科書にある2年生の作成した詩の表現のおもしろさに触れ、物を観察するには、五感を通して様々な視点から見つめ、表現することの大切さを理解していた。

「たこ」の動画を見て、「たこ」の動きや様子を言葉で表すために、イメージマップを活用し、連想ゲームのように、思い付いた言葉や出来事を書き込んでいった。「足→8本

→動く→やわらかい→くねくね→うーん→すいすい→ふわふわ→ゆっくり→泳ぐ」のように、次々に言葉が出てきた。動画を見ながらつぶやく姿があった。国語科「かんさつ名人になろう」において、対象を丁寧に観察して文章にまとめる学習を行ったことや、生活科において、植物や生き物を観察する学習をし絵を描き、観察したことを言葉を使って記録たことを思い出す様子が見られた。

(2)「文字のない絵本」を読み、自由にお話作りをする。

表3に示した絵本から好きな絵本を選び、自由にお話を作った。「文字のない絵本」に興味を示し、お互いに絵本を見せながら、自分の作ったお話を伝え合う姿があった。

前時に学習した「ようすをあらわすことば」について思い出し、より詳しく伝える言葉や表現を使おうとしていた。例えば『雨、あめ』の絵本を選んだ児童は、雨の降る様子について「雨がどんどん降ってきた」と考えた。それに対して「雨がざあざあ降っているがよいのではないか」「はじめはぽつりぽつり降ってきたんだよ」「ちがうよ。急に降ってきたんだよ」と想像を広げながら次々に言葉を伝え合い、同じ絵を見ても違う表現になることを実感していた。このような伝え合いを繰り返しながら語彙を増やし、言語感覚を磨いていくことができるといえよう。

(3)『木のうた』を読み、動物や生き物になりきってお話作りをする。そのお話をもとに詩を創作する。

はじめに、木になりきって各見開きページを見ながら、思いつく言葉を発表した。表5は、木になりきって木の気持ち、木のようす、まわりのようすについて、見たこと、感じたことを表現した言葉である。オノマトペが多いのは、前時に学習した「ようすをあらわすことば」において、擬態語、擬音語を学習した成果といえよう。この表は言葉が思いつかない児童のためにヒントカードとして用いた。

次に、集めた言葉を使ってその場面に合ったお話を作った。みんなが発表した言葉も使いながら、より自分の考えたお

表5 2年生が木になりきって考えた言葉

木の気持ち	木のようす	まわりのようす
・わくわく	・ぼかぼか	・しーん
・うきうき	・ぬくぬく	・ひよっこり
・るんるん	・ほっこり	・こちょこちょ
・やったあ	・さわさわ	・つんつん
・どきどき	・そよそよ	・がりがり
・えっへん	・ぐんぐん	・てくてく
・ほっ	・すくすく	・ばさばさ
・がっくり	・はらはら	・くんくん
・ぐすん	・ばらばら	・もぐもぐ
・すつきり	・ぶるぶる	・さくさく
・いらいら	・すやすや	・がさごそ
・しょんぼり		・がやがや
・はあー		・ざわざわ
・どうしよう		・わいわい
・なんで?		・ぼかぼか
・ふふふ		・ヒュー

話にあった言葉を探す姿が見られた。試行錯誤しながら言語感覚を磨いているのである。例えば、12見開きの絵【図2】を見て次のようなお話を作った。

図2『木のうた』見開き12ページ



パタパタパタパタパタ  
ツバメさんバイバイ！  
自分の家に帰っていったのかなあ、  
リスさん  
とうみん用の穴ほってる  
私のかみはかれちゃった  
あんなにきれいだったのに  
かなしいな



### 図3 2年生が創作した詩

シーン  
とうみんなしています。  
動物が出てきたよ。  
ツバメさん こんにちは  
よいしょ よいしょ  
すの中に入って  
子どもたち 虫をとってきたよ  
おいしい おいしい  
大きくなったね  
ツバメさん どこにいった  
バイバイ  
もう ふゆだしねよう  
おやすみさない  
シーン

「ツバメさんバイバイ!」「私のかみはかれちゃった」など、木になりきっていることが伝わってくる。「自分の家に帰っていったのかな」「とうみんな用の穴掘ってる」と想像を広げている。さらに、語彙を増やして感性を豊かにするために、4人グループになり、作ったお話を交流し、よかったことを伝え合い、詩にする言葉を選んだ。言葉を吟味することの楽しさを実感したようである。そして、選んだ言葉を使って詩を書いた。【図3】

四季の移り変わりがわかるように言葉を選んでいることが伝わってくる。「シーン」と周りの様子を表す象徴的な言葉をはじめと終わりに使っている。

(4) 創作した詩を読み合い、よさを伝え合う。

児童は、お互いの作品から言葉を使って表現する楽しさを感じ、もっと作りたいと意欲を示していた。「お話を考えるのは楽しかった」「絵を見ていると自然にお話が浮かんできた」「1年生にも読み聞かせをしたい」「お話から詩を作るときに言葉を選ぶのが難しかった」「同じ絵を見ても浮かんでくる言葉が違うことがわかっておもしろい」と感想を述べていた。「文字なし絵本」を読み解いていくおもしろさを感じている。

このように、児童は言葉を使って表現することを通して、語彙を豊かにしていく。そのために、「文字なし絵本」を活用することは有効である。

#### 4. まとめ

語彙を増やしていくためには、単なる言葉集めに終始するのではなく、より適切な言葉を求める意欲をいかにして子どもの中に生み出すか、そして、言葉を吟味する経験をどれだけ積み重ねられるかが大切になるだろう。

本論では、小学校において語彙を豊かにする学習材としての「文字なし絵本」の可能性について考察した。

その結果、「文字なし絵本」を活用することにより、次の2つの力がつくことが明らかになった。

- ① 絵が物語っていることを読み取る力がつくこと
- ② 今まで獲得してきた言葉を探して表現する力がつくこと

文字を読めない幼児が楽しそうに絵本を見ているのは、絵が読めるから、絵の中にある物語を読み取っているからといえよう。絵本を読んでいる子どものつぶやきを聞き、その言葉を通して子どもの感じていることを読み取り、共感して語り合うことができれば、絵本の文字のある・なしに関わらず、言葉の世界を広げるきっかけになるだろう。

これらのことを踏まえ、幼児教育において語彙を豊かにする絵本を活用した言語活動を開発し、さらに学習材としての意義と可能性について研究を深めたい。

## 引用・参考文献

- イエラ・マリ(1977)『木のうた』ほるぷ出版
- 生田美秋・石井光恵・藤本朝巳編著(2013)『ベーシック 絵本入門』ミネルヴァ書房
- 石井光恵(2004)「文字なし絵本に関する一考察 — 絵本の画面から文字の言葉が消えるとき—」  
『日本保育学会大会発表論文集』 890-891
- 石井光恵編著(2015)『絵本学講座2 絵本の受容』朝倉書店
- 今田由香・大島丈志編(2016)『絵本ものがたり FIND—見つける・つむぐ・変化させる—』朝倉書店
- 金澤延美・山本長紀(2015)「文字なし絵本の教材化からの一考察 -短大保育科1年生対象の実践データの分析から-」『駒沢女子短期大学研究紀要』48 1-7
- 金澤延美・山本長紀(2016)「文字なし絵本の作話課題からの一考察 -短大保育科1年生と小学校4年生対象の比較を通して-」『駒沢女子短期大学研究紀要』49 1-10
- 黒澤浩・佐藤宗子・砂田弘・中多泰子・広瀬恒子・宮川健郎編(2004)『新・こどもの本と読書の事典』ポプラ社
- 中川素子・今井良朗・笹本純(2001)『絵本の視覚表現—そのひろがりとはたらき』日本エディタースクール出版部
- 中川素子・吉田新一・石井光恵・佐藤博一編(2011)『絵本の事典』朝倉書店
- 中川素子編著(2014)『絵本学講座1 絵本の表現』朝倉書店
- 中澤潤・中道圭人・大澤紀代子・針谷洋美(2005)「絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響」『千葉大学教育学部研究紀要』53 193-202
- 中澤潤・泉井みずき・早瀬奈津代・下村直子(2008)「幼児の識字力と絵本のストーリー理解」『千葉大学教育学部研究紀要』56 111-115
- 西川由紀子(2007)「こどもにとって絵本の絵の役割— 絵本「はじめてのおつかい」のおはなしづくりのデータ分析—」『立命館文学』559 62-70
- 西田太郎・親泊絵里子(2022)「領域「言葉」を視座とした絵本を読む活動の検討—幼児における読みの交流の分析を通して—」『国語科学学習デザイン』6(1) 1-10
- 松居直(1995)『絵本の森へ』日本エディタースクール出版部
- 文部科学省(2017a)「小学校学習指導要領(平成29年告示)」
- 文部科学省(2017b)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編」
- 文部科学省(2017c)「幼稚園教育要領(平成29年告示)」